

## コロナ対策に必要な考え方

新型コロナウイルス感染で始まった2020年もすでに8月となりました。本来であれば、今頃はオリンピックで日本中、いや世界中がお祭り騒ぎだったのでしょうかが、来年のオリンピックもどうなるかわからぬ状況ですね。相変わらず、マスクは東京都の感染者が増加、東京だけでなく地方まで感染者は広がっているなど報道しています。感染者数は、「一つの事実としては発信する必要はあるでしょうが、それだけを取り上げることは、果たしてこの問題の本質なのだろうかと考えます。

8月4日に社長より全社員に向けて投稿された内容を再度確認しましょう。

このウイルス問題に関しては●感染そのものを防ぐ対策と●社会的評議リスクを最小にする対策とで、それぞれ別物として捉える必要があるでしょう。

それぞれの観点において、必要な知識が理解できれば必要以上の不安は払拭されるはずです！

- 感染そのものを防ぐ基本対策
  - ・濃厚接触」となりうるシーンを最小限にする（感染経路の多くは、飛沫）の為、マスク着用やパーテーションの効果性は非常に高いと考えられる。）
  - ・手洗いをはじめとした、こまめな手指消毒を行う 手指から、口や鼻等をさわって侵入する経路を最小にする）
  - ・ウイルス侵入を「ゼロ」にする事は難しい以上、免疫を最大にする。良く寝る。適度に運動する。ちゃんと食べる。前向きに明るく生きる！！！！！
- これらは、流行初期段階から、基本的に変わりません。
- ウイルスの変異や、何か新たな発見があれば、変化があり得ます。

- 社会的評議リスクを最小にするために必要な知識
  - ・大前提として、無症状感染者が非常に多くいる今、検査による陽性者数＝感染者数ではなく、未発覚感染者が実際にかなり多くいるはずである事を理解する。
  - ・現在の国家及び地方行政方針では、「濃厚接触者」と明らかに症状がある方に対する医師および保健所判断」、PCR検査が行われる為、やはり「濃厚接觸」となる生活シーンを最小にする。家族等の生活を共にしている方を除く
  - ・感染者が出た場合、「症状発症日の最低2日前まで」の接触履歴を遡る事による事を、理解しておく。

本来、この情勢ですから感染する事そのものは、まったく悪ではありません。もはや絶対に避ける方法などありません。経済や人間らしい日常生活とのバランスをとりながら、確率を下げるのみです。

しかしながら、感染初期段階の「社会的評議リスク」への対応としては、感染する事が問題なのではなく、「どのように感染したか？」にスポットライトが当たるわけです。どうかとは思いますが、事実として、今はそうなっていますね。）

ですので、その点を理解しつつ日常の業務や、必要な対策を講じた上で日常生活の楽しみは、引き続き問題ない事と捉えて明るく前向きにお仕事をして、生活していくましょう！

心持ちひとつで、免疫にも影響しますし！このフィールドの環境要因は皆平等です！しかしながらどのように捉えて、どのようなマインドで生きていいくか、生活していくかは人によって本当に様々でしょう。

どうせなら、より良く、力強く健康にして世の中から与えられたお役目をしっかりと果してゆきたいものです！

引き続き、ともに精進して参りましょう！

## 台風、豪雨による浸水被害

コロナで大変な時期ではありますが、全国的に梅雨が明けて夏を迎えた今、考えておかないといけない問題があります。それは、秋の長雨、台風シーズンとなると豪雨による浸水被害が考えられます。

7月の九州地方の大暴雨と同じような状況が私たちの住んでいる場所に起これ得る可能性は、かなりあると思います。

ですから、みなさん一度自分の住んでいる場所のハザードマップを確認していただきたいと思います。

近いうちに、皆さんにお願いしますが、自分の住んでいる地域のハザードマップを確認していただき浸水の危険度を報告していただきたいと思います。おそらく市町村によつてハザードマップも仕様が違うと思いますので、報告内容の基準を確認してから皆さんにお知らせします。是非、市町村のホームページからハザードマップを確認しましょう。大雨になつてからでは遅い、危険度をあらかじめ知つておくことが重要です！ですね

